



平成 19 年 3 月期 第 3 四半期財務・業績の概況（連結）

平成 19 年 2 月 9 日

上場会社名 株式会社 J - オイルミルズ

(コード番号：2613 東証・大証第 1 部)

(URL <http://www.j-oil.com/>)

代表者 代表取締役社長 佐々木 晨二

問合せ先責任者 経理部長 立見 健一 TEL (03) 5148 - 7100

親会社等の名称 味の素株式会社 (コード番号：2802)

親会社等における当社の議決権所有比率 27.3%

1. 四半期財務情報の作成等に係る事項

- 会計処理の方法における簡便な方法の採用の有無 : 有
 内容： 法人税等の計上基準について年間予測税率を採用しております。
 その他影響額が僅少なものにつき一部簡便な方法を採用しております。
 最近連結会計年度からの会計処理の方法の変更の有無 : 無
 連結及び持分法の適用範囲の異動の有無 : 無

2. 平成 19 年 3 月期第 3 四半期財務・業績の概況（平成 18 年 4 月 1 日 ~ 平成 18 年 12 月 31 日）

(1) 経営成績（連結）の進捗状況 (注) 記載金額は単位未満を切り捨てて表示しております。

	売上高		営業利益		経常利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%
19 年 3 月期第 3 四半期	124,507	5.0	5,419	21.9	6,133	21.5
18 年 3 月期第 3 四半期	131,109	6.7	6,936	130.8	7,816	105.1
(参考) 18 年 3 月期	169,794		8,027		9,193	

	四半期（当期）純利益		1 株当たり四半期 （当期）純利益	潜在株式調整後 1 株当たり四半期 （当期）純利益
	百万円	%	円 銭	円 銭
19 年 3 月期第 3 四半期	4,406	35.8	26.41	-
18 年 3 月期第 3 四半期	3,244	31.3	19.44	-
(参考) 18 年 3 月期	4,654		27.45	-

(注) 売上高、営業利益等におけるパーセント表示は、対前年同四半期増減率を示しております。

[経営成績（連結）の進捗状況に関する定性的情報等]

当第 3 四半期（平成 18 年 4 月 1 日～平成 18 年 12 月 31 日）におけるわが国経済は、「いざなぎ景気」を超える息の長い好景気下にあります。高い経済成長を示している B R I C s 等、世界的な景気の回復・拡大に伴い企業収益が改善し、設備投資も堅調に推移しました。夏場には長雨による影響や原油高による諸物価の上昇が家計に影響を及ぼす局面がありましたが、その後は回復し個人消費も改善傾向にあります。しかしながら、個人消費の改善は食料品支出にまで波及したとは言い難い状況で推移していると思われまます。

当社の基幹事業である製油産業を取り巻く環境は、夏場以降の海外穀物相場全面高の影響を受けております。主原料の内、大豆につきましては、前半は 1 ブッシェル当たり 5 米ドル台半ばから 6 米ドルの範囲で推移しました。その後、バイオエタノール需要の増加に伴うとうもろこし相場の上昇を受け、とうもろこしへの転換による大豆作付面積の減少懸念、B R I C s の経済発展による食糧需要の増加等によりシカゴ相場が上昇し、12 月には 1 ブッシェル 7 米ドル弱まで達する展開となりました。他の主原料である菜種は、期初 1 トン当たり 260 加ドル台でスタートしたウィニペグ相場が、世界的なバイオディーゼル需要が急増したこと、豪州菜種の干ばつによる大減産予想等、強材料が多く、10 月以降は同 370 加ドルまで高騰する状況となりました。為替相場につきましては、4 月は 119 円台で始まり、一時的に 110 円台と円高回復したものの、6 月後半には 117 円と円安に戻り、以降は 115 円～120 円台という円安傾向で推移しました。原料・為替相場以外の要因においても、一時期の騰勢からは落ち着いたものの依然として高位にある石油相場による各種資材・包材費や燃料費のコストアップ等、収益を圧迫する要因が拡大しております。

このようなコスト上昇が続く厳しい環境のもと、油脂販売は、収益改善策として製品開発力強化と提案・技術支援型の営業活動に努めており、「A」JINOMOTO ささらキャノーラ油」の拡売、「A」JINOMOTO 健康サララ」の業務用市場投入、外食ユーザーとの共同開発商品など、内食・外食・中食市場などの販売に注力しました。一方、コストの上昇に応じた製品価格の是正を図っており、夏場以降、一部、実勢化の動きとなりました。急騰する原料コストを勘案した適正な製品価格への是正に向けて、今後も引き続きお客様に粘り強くご理解を求めています。

また当社は、コストと製品価格による採算性を注視し細かく販売管理する一方、第一期中期経営計画のコストダウン目標達成に向けて各施策遂行に邁進中であり、さらに消費者ニーズを的確に捉えた商品開発と販促活動による家庭用市場の「キャノーラ油」拡販、着実に実績を挙げてきている業務用市場での提案型営業と機能油・風味油など付加価値商品の間断のない市場投入など、多面的な販売政策を実施しております。

以上の結果、当第3四半期の連結売上高は、1,245億7百万円（前年同期比5.0%減）となりました。利益面は、営業利益54億19百万円（前年同期比21.9%減）、経常利益61億33百万円（前年同期比21.5%減）となりましたが、固定資産の売却収益等による特別利益が前年同期に比べ増加したことや特別損失が前年同期に比べて減少した為、四半期純利益では44億6百万円（前年同期比35.8%増）と増益となりました。

(2) 財政状態（連結）の変動状況

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
19年3月期第3四半期	137,466	64,125	46.6	383.65
18年3月期第3四半期	137,667	59,267	43.1	354.48
(参考)18年3月期	136,559	61,088	44.7	364.98

(注)18年3月期第3四半期及び18年3月期の数値につきましては、従来の「株主資本」を「純資産」の欄に、「株主資本比率」を「自己資本比率」の欄に、「1株当たり株主資本」を「1株当たり純資産」の欄に記載しております。

【連結キャッシュ・フローの状況】

	営業活動による キャッシュ・フロー	投資活動による キャッシュ・フロー	財務活動による キャッシュ・フロー	現金及び現金同等物 期末残高
	百万円	百万円	百万円	百万円
19年3月期第3四半期	618	1,643	1,371	4,884
18年3月期第3四半期	-	-	-	-
(参考)18年3月期	12,124	7,117	6,878	5,775

(注)連結キャッシュ・フローの四半期開示については、当連結会計年度より行っているため、前年同四半期の数値については記載していません。

[財政状態（連結）の変動状況に関する定性的情報等]

(資産、負債及び純資産の状況)

当第3四半期末の総資産は1,374億66百万円となり、前連結会計年度末と比較して9億6百万円の増加となりました。

資産が増加した主な要因は、例年10月から12月の売り上げが総じて多いという季節要因等により売掛金の増加が49億23百万円、一方で有形・無形固定資産の減少22億34百万円などによるものであります。

負債が減少した主な要因は、支払手形及び買掛金の減少16億96百万円、短期・長期借入金の増加23億93百万円、未払法人税等の減少15億92百万円などによるものであります。

純資産は641億25百万円となり、前連結会計年度末の資本合計610億88百万円と比較して30億36百万円の増加となり、自己資本比率は1.9%増加いたしました。

(連結キャッシュ・フローの状況)

当第3四半期末における現金及び現金同等物は、48億84百万円となりました。

営業活動によるキャッシュ・フローは、6億18百万円のマイナスとなりました。主な要因は、税金等調整前四半期純利益71億36百万円、減価償却費43億28百万円等によるプラス要因が、売上債権の増加49億23百万円や仕入債務の減少16億70百万円、負ののれん償却額8億12百万円、引当金の減少額8億72百万円、法人税等の支払33億51百万円ほかを下回ったことによります。

投資活動によるキャッシュ・フローは、16億43百万円のマイナスとなりました。主な要因は、製油関連設備の更新などの固定資産の取得による支出38億61百万円が、固定資産の売却による収入23億86百万円ほかを上回ったことによります。

財務活動によるキャッシュ・フローは、13億71百万円のプラスとなりました。主な要因は、法人税等の中間納付や中間配当金などの支払を含む季節的な運転資金増加に対処するため、短期借入金（1年内返済予定の長期借入金を除く）による資金調達が34億円増加したことによります。

3. 平成19年3月期の連結業績予想（平成18年4月1日～平成19年3月31日）

	売上高	経常利益	当期純利益
	百万円	百万円	百万円
通 期	172,000	8,300	4,800

（参考）1株当たり予想当期純利益（通期）28円71銭

[業績予想に関する定性的情報等]

当社グループを取り巻く経営環境は、大豆や菜種など原料コスト急騰が続く厳しい環境下ではありますが、期首業績目標に挑戦するべく、収益改善策を推進してまいり所存であり、前回（平成18年11月10日）発表の業績予想に変更はありません。

上記の予想は本資料の発表日現在において入手可能な情報にもとづき作成したものであり、実際の業績は今後様々な要因によって予想値と異なる場合があります。

以上

〔添付資料〕

1. (要約) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

科目	当第3四半期 平成18年12月31日現在		前連結会計年度 平成18年3月31日現在		増減 金額	前年同四半期 平成17年12月31日現在	
	金額	構成比	金額	構成比		金額	構成比
(資産の部)		%		%			%
流動資産							
1 現金及び預金	4,884		5,775		891	5,397	
2 受取手形及び売掛金	32,566		27,643		4,923	32,930	
3 たな卸資産	24,127		24,352		225	21,232	
4 その他	4,295		4,276		18	4,153	
流動資産合計	65,873	47.9	62,048	45.4	3,824	63,713	46.3
固定資産							
1 有形固定資産	56,030		57,449		1,419	57,333	
2 無形固定資産	2,876		3,690		814	4,128	
3 投資その他の資産	12,686		13,370		684	12,491	
固定資産合計	71,592	52.1	74,510	54.6	2,918	73,953	53.7
資産合計	137,466	100.0	136,559	100.0	906	137,667	100.0
(負債の部)							
流動負債							
1 支払手形及び買掛金	13,073		14,770		1,696	13,769	
2 短期借入金	21,212		17,141		4,071	21,523	
3 その他	10,150		12,178		2,028	11,389	
流動負債合計	44,436	32.4	44,090	32.3	345	46,682	33.9
固定負債							
1 長期借入金	16,042		17,720		1,677	18,165	
2 繰延税金負債	6,331		6,148		183	5,859	
3 退職給付引当金	2,979		3,213		234	3,121	
4 連結調整勘定	-		2,166		2,166	2,437	
5 負ののれん	1,353		-		1,353	-	
6 その他	2,197		2,131		65	2,135	
固定負債合計	28,904	21.0	31,380	23.0	2,475	31,717	23.0
負債合計	73,341	53.4	75,471	55.3	2,129	78,400	56.9

(単位：百万円)

科目	当第3四半期 平成18年12月31日現在		前連結会計年度 平成18年3月31日現在		増減 金額	前年同四半期 平成17年12月31日現在	
	金額	構成比	金額	構成比		金額	構成比
(資本の部)		%		%			%
資本金	-	-	10,000	7.3	-	10,000	7.3
資本剰余金	-	-	31,633	23.2	-	31,632	23.0
利益剰余金	-	-	15,605	11.4	-	14,161	10.3
その他有価証券評価差額金	-	-	3,959	2.9	-	3,571	2.6
為替換算調整勘定	-	-	5	0.0	-	5	0.0
自己株式	-	-	104	0.1	-	93	0.1
資本合計	-	-	61,088	44.7	-	59,267	43.1
負債及び資本合計	-	-	136,559	100.0	-	137,667	100.0
(純資産の部)							
株主資本							
1 資本金	10,000	7.3	-	-	-	-	-
2 資本剰余金	31,634	23.0	-	-	-	-	-
3 利益剰余金	18,946	13.8	-	-	-	-	-
4 自己株式	122	0.1	-	-	-	-	-
株主資本合計	60,457	44.0	-	-	-	-	-
評価・換算差額等							
1 その他有価証券評価差額金	3,574	2.6	-	-	-	-	-
2 繰延ヘッジ損益	56	0.0	-	-	-	-	-
3 為替換算調整勘定	36	0.0	-	-	-	-	-
評価・換算差額等合計	3,667	2.6	-	-	-	-	-
純資産合計	64,125	46.6	-	-	-	-	-
負債及び純資産合計	137,466	100.0	-	-	-	-	-

2.(要約)四半期連結損益計算書

(単位:百万円)

科目	当第3四半期		前年同四半期		増減	前連結会計年度	
	平成18年4月1日 平成18年12月31日		平成17年4月1日 平成17年12月31日			平成17年4月1日 平成18年3月31日	
	金額	百分比	金額	百分比	金額	金額	百分比
		%		%			%
売上高	124,507	100.0	131,109	100.0	6,601	169,794	100.0
売上原価	98,678	79.3	102,790	78.4	4,111	133,376	78.6
売上総利益	25,829	20.7	28,319	21.6	2,490	36,418	21.4
販売費及び一般管理費	20,409	16.3	21,383	16.3	973	28,390	16.7
営業利益	5,419	4.4	6,936	5.3	1,516	8,027	4.7
営業外収益	1,154	0.9	1,355	1.0	200	1,811	1.1
営業外費用	440	0.4	474	0.3	33	645	0.4
経常利益	6,133	4.9	7,816	6.0	1,683	9,193	5.4
特別利益	1,711	1.4	111	0.1	1,600	809	0.5
特別損失	708	0.6	2,554	2.0	1,846	2,983	1.8
税金等調整前四半期 (当期)純利益	7,136	5.7	5,373	4.1	1,763	7,020	4.1
法人税等	2,730	2.2	2,128	1.6	601	2,365	1.4
四半期(当期)純利益	4,406	3.5	3,244	2.5	1,161	4,654	2.7

3.(要約)四半期連結株主資本等変動計算書

当第3四半期(自平成18年4月1日至平成18年12月31日)

(単位:百万円)

	株主資本				
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計
平成18年3月31日残高	10,000	31,633	15,605	104	57,134
当四半期中の変動額					
剰余金の配当			1,003		1,003
役員賞与			62		62
四半期純利益			4,406		4,406
持分法適用会社の合併に伴う増加高			0		0
自己株式の取得				20	20
自己株式の処分		1		1	2
株主資本以外の項目の当四半期中の変動額(純額)					
当四半期中の変動額合計	-	1	3,341	18	3,323
平成18年12月31日残高	10,000	31,634	18,946	122	60,457

	評価・換算差額等				純資産合計
	その他 有価証券 評価差額金	繰延ヘッジ 損益	為替換算 調整勘定	評価・換算 差額等合計	
平成18年3月31日残高	3,959	-	5	3,954	61,088
当四半期中の変動額					
剰余金の配当					1,003
役員賞与					62
四半期純利益					4,406
持分法適用会社の合併に伴う増加高					0
自己株式の取得					20
自己株式の処分					2
株主資本以外の項目の当四半期中の変動額(純額)	385	56	41	287	287
当四半期中の変動額合計	385	56	41	287	3,036
平成18年12月31日残高	3,574	56	36	3,667	64,125

4.(要約)四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位:百万円)

区 分	当第3四半期 (自平成18年4月1日 至平成18年12月31日)	前連結会計年度 (自平成17年4月1日 至平成18年3月31日)
	金 額	金 額
営業活動によるキャッシュ・フロー		
1 税金等調整前四半期(当期)純利益	7,136	7,020
2 減価償却費	4,328	6,370
3 連結調整勘定償却額	-	1,083
4 負ののれん償却額	812	-
5 持分法による投資損益(益:)	79	127
6 引当金の増減額(減少:)	872	113
7 売上債権の増減額(増加:)	4,923	1,226
8 たな卸資産の増減額(増加:)	228	1,070
9 仕入債務の増減額(減少:)	1,670	1,117
10 未払金・未払費用の増減額(減少:)	119	464
11 その他	665	1,170
小 計	2,789	12,654
12 利息及び配当金の受取額	183	361
13 利息の支払額	199	290
14 特別加算退職金の支払額	40	83
15 法人税等の支払額	3,351	517
営業活動によるキャッシュ・フロー	618	12,124
投資活動によるキャッシュ・フロー		
1 固定資産の取得による支出	3,861	8,405
2 固定資産の除却による支出	166	354
3 固定資産の売却による収入	2,386	991
4 投資有価証券の取得による支出	17	162
5 連結範囲の変更を伴う 子会社株式の売却による収入	-	774
6 その他	14	38
投資活動によるキャッシュ・フロー	1,643	7,117
財務活動によるキャッシュ・フロー		
1 短期借入金の純増減額(減少:)	3,400	9,260
2 長期借入金の借入れによる収入	-	5,000
3 長期借入金の返済による支出	1,006	1,500
4 自己株式の取得又は売却による収支	17	33
5 配当金の支払額	1,004	1,085
財務活動によるキャッシュ・フロー	1,371	6,878
現金及び現金同等物に係る換算差額	-	-
現金及び現金同等物の増減額(減少:)	891	1,871
現金及び現金同等物の期首残高	5,775	7,811
子会社合併に伴う現金及び現金同等物の増加高	-	0
連結子会社除外に伴う現金及び現金同等物の減少高	-	164
現金及び現金同等物の四半期末(期末)残高	4,884	5,775

(注)(要約)連結キャッシュ・フロー計算書は当連結会計年度より作成しておりますので、前年同四半期の数値は記載しておりません。